

連載

熱海市立図書館 100年のあゆみ

第11回 図書館を支える ボランティア活動

問い合わせ：熱海市立図書館

☎0557(86)6591

熱海市立図書館の100年の歴史は、市民の皆さんの温かな協力の継続により支えられてきました。

熱海読み聞かせの会

平成8年から同会が図書館で始めた「おはなし会」は、同年に多賀小学校での「読み聞かせ」に発展し、現在では市内各小中学校で行われています。

子どもたちに読書やおはなしの楽しさを伝えるなど、良書との出会いを願って活動する会の活動は高く評価され、平成23年度には文部科学大臣賞を受賞しました。

また、昨年「熱海読み聞かせボランティア連絡会」を立ち上げ、「図書館100周年記念クリスマス会」を開催し、たくさんの子どもたちに喜ばれました。

製本教室

製本教室の活動は、古文書の解説

や、古い書物の修復作業から始まりました。平成19年からは「製本と楽しい仲間達」へと発展し、想い出の品を一冊の本にしたり、書籍の修理の仕方を学びながら、和綴じ本の綴じ紐の修復や、古地図の裏打ちなど、貴重な歴史資料の保存にも寄与する活動をしています。

また、毎年夏休みに行われる「親子手作り絵本教室」では、世界に1冊しかない自分だけの本を作る子どもたちの指導もしています。

読書感想画教室

この教室は、自分が選んだ図書の感想や印象を絵にして表す教室で、温かなご指導のもと、絵画の基礎から学ぶことができます。

朗読の会

市内の施設や図書館を会場にして朗読会が開催されています。声を出して本を読む朗読の楽しさや、読書の意義を多くの人に伝えていきます。

茶飲みんGUの会

同会は、毎週土日に図書館の和室を会場に、茶席を設ける活動をしています。甘いお菓子とお抹茶を楽しみにしている来館者も多いです。

あたま図書館くらぶ

静岡県子ども読書アドバイザーを中心として、小学生を対象に、毎月テーマを決めて本を紹介するブックトークなど、本に興味を持たせながら読書の楽しさを伝えていきます。

親子でちょこつと英会話

子育てママを中心に活動している同教室は、昨年からは始まり好評を得ています。月2回の教室では、親子の可愛らしい英語の会話が、笑顔とともに弾んでいます。

カウンターボランティア

平成19年、新しい図書館に移転した際、一番の問題は図書カウンターが3カ所が増えることによる職員の不足でした。それを解決したのが、全国でも例のない市民によるカウンターボランティアの導入です。現在24人のボランティアが、図書の貸出・返却の業務、書架の図書整理、図書の修復作業など、図書館運営を支えています。



カウンターボランティア

このような、図書館の運営を支える読書の楽しさを伝える活動は、現在の熱海市立図書館の大きな力となっています。

市長メッセージ 97

テレビ取材

熱海市長 齊藤 栄



東京の某テレビ局から「熱海V字復活の理由」というテーマでインタビューを受けました。熱海が今、そのように見られているのはとてもうれしいことです。市内各所で取材が行われたようですが、私はほぼ満開のあたま桜でピンク色に染まった、糸川べりで受けました。

「ADさんいらっしやい」を始めて4年が経ち、メディアへの露出の効果がようやく出てきたこと。しかし、梅園の大改修は9年前に、また糸川のあたま桜の整備は7年前に始まっています。大切なことは熱海の宝を磨くこと。そのことをコツコツと行ってきたからこそそのV字復活です。そのようなことを答えました。

今後真剣に取り組まなくてはならない大きな課題として、来熟客の満足度の向上があります。旅館やホテル、飲食店や土産物店、そして市民総ぐるみでお客様の満足度を上げていくことが、熱海をさらにワンランク上の観光地にするための課題です。ちょうどそのインタビュの際に、黄色いジャンパーを着た、熱海まち歩きガイドの会のメンバーの方が横を通られ、一市民として観光客に熱海を案内する活動をPRされていました。

来熟する観光客にとって、熱海は、海・山・島、温泉、梅・桜といった自然の恵みだけではなく、美味しい地の食事も、道を聞いたときの市民の感じのよい対応、きれいに掃除のされた路地など、熱海で接する全てのもので構成されています。市民一人ひとりの努力で「熱海に来てよかった」と思っていただけのように取り組んでいきましょう。